

岩手県におけるブルーベリーの特性評価と優良品種の選定

高橋 司・田村博明

(岩手県農業研究センター)

Evaluation of Characteristics of Blueberry and Selection of Quality Goods Variety in Iwate Prefecture

Tsukasa TAKAHASHI and Hiroaki TAMURA

(Iwate Agricultural Research Center)

1 はじめに

岩手県におけるブルーベリーの栽培は昭和 55 年頃から始まり、現在は岩手町、奥州市、岩泉町、盛岡市、一関市、八幡平市など県内各地で導入されており、約 40ha の栽培面積となっている。

近年は果実の機能性成分が注目され、生食、加工とも需要が伸びているが、消費の増加とともに大玉で糖度の高い食味良好な品質が求められている。このため、本県の気象条件に適し、品質良好で生産性の高い優良品種を選定したので、報告する。

2 試験方法

‘ブルータ’、‘アーリーブルー’、‘デューク’、‘ハリソン’、‘ミーダー’、‘スパータン’、‘シェラ’、‘ブルーチップ’、‘トロ’、‘ブルーレイ’、‘ブリギッタ’、‘コビル’、‘ダロー’、‘レイトブルー’、‘エリオット’は平成 11 年挿し木、平成 13 年 4 月定植した。‘プル’、‘ヌイ’、‘レカ’は平成 12 年挿し木、平成 13 年定植、‘ブルージェイ’は平成 13 年挿し木、平成 14 年 4 月定植した。

定植 3 年後から適熟した果実を約 3 日おきに収穫し、定植 5 年目～6 年目（平成 17 年～平成 18 年）の収穫盛期に糖度と酸度を測定し、食味アンケート調査をした。

定植 6 年目～7 年目（平成 18 年～平成 19 年）に収穫果実の大きさ（直径）を基準に選果し、2 L（横径 18mm）以上の選果割合を調査した。

3 試験結果及び考察

(1) 収穫期

収穫期は定植 4 年目から 6 年目（平成 16～18 年）の収穫盛期を基準に極早生（7 月上旬）、早生（7 月中旬）、早～中生（7 月第 5 半旬）、中生（7 月第 6 半旬）、晩生（8 月上旬）、極晩生（8 月中旬）の 6 つに区分した（表 1）。

(2) 収量

収穫は定植 3 年目（平成 15 年）から開始した。定植 3 年目から 6 年目までの積算収量の平均は 3,638 g であり、4,000 g を越えた品種を多収性品種と判断すると、‘デューク’、‘ブルージェイ’、‘スパータン’、‘ヌイ’、‘トロ’、‘ブルーレイ’、‘ダロー’が多収性品種と考えられた。また、‘プル’は 1 年遅れての挿し木であり、多収の可能性が高いと考えられた。なお、‘ブルータ’は定植 4 年目以降衰弱し、収穫皆無となった（表 1）。

(3) 大玉比率

1 果重及び 2 L 以上の選果割合が平均以上であった品種は‘デューク’、‘ハリソン’、‘ヌイ’、‘シェラ’、‘ブルーチップ’、‘プル’、‘トロ’、‘ダロー’であり、これらの品種は大玉品種と考えられた（表 1）。

(4) 果実品質

糖度が平均より高かった品種は‘アーリーブルー’、‘ブルージェイ’、‘シェラ’、‘プル’、‘ブリギッタ’、‘コビル’、‘レイトブルー’、‘エリオット’であった。

酸度が平均より低かった品種は‘アーリーブルー’、‘デューク’、‘ハリソン’、‘ブルージェイ’、‘ミーダー’、‘スパータン’、‘レカ’、‘ブルーチップ’、‘プル’、‘トロ’であった。

糖度が高く、酸味が少ない品種は‘アーリーブルー’、‘ブルージェイ’、‘プル’であり、これらの品種は生食に向いている品種と考えられた（表 1）。

(5) 食味

平成 17 年と平成 18 年に食味アンケート調査をした。収穫期が異なるため収穫盛期ごと（各年 6 回）に実施した。1 品種当たりの平均回答数は平成 17 年が 24.5 人、平成 18 年が 29.6 人であった。

食味評価は‘うまい’、‘ややうまい’、‘ややまずい’、‘まずい’の 4 項目で回答してもらい、‘うまい’、‘ややうまい’の合計割合が 2 ヶ年とも平均を上回った品種は‘アーリーブルー’、‘デューク’、‘ブルージェイ’、‘

スパータン’、‘シェラ’、‘ブルーチップ’、‘プル’、‘ブルーレイ’であり、これらの品種は良食味品種であると考えられた（図1）。

ブルージェイ’、早～中生品種は‘スパータン’、‘シェラ’、‘ブルーチップ’、中生品種は‘プル’、‘ブルーレイ’と選定した。

4 ま と め

以上の結果から、食味評価を重視し、収量、大玉比率、果実品質を基準に収穫期ごとの優良品種として、極早生品種は‘アーリーブルー’、早生品種は‘デューク’、

晩生種は食味アンケート調査で評価が高い品種が無かったため、選定しなかったが収量と大玉比率で評価すると‘ダロー’が有望であった。また、極晩生種は酸度が高く、食味アンケート調査で評価が高い品種が無かったことと、小玉であったため、選定しなかった。

表1 ブルーベリーの収穫期、収量、果重、選果割合、果実品質

	収穫期	収穫盛期 (月/日)	積算収量 (g)	果重 (g)	選果割合 2L以上 (%)	糖度 (Brix.%)	酸度 (g/100ml)
ブルータ	極早生	7/4	181	1.3			
アーリーブルー	極早生	7/9	3,169	1.4	1.2	11.4	0.62
デューク	早生	7/14	4,319	2.1	22.1	9.9	0.66
ハリソン	早生	7/18	3,820	2.1	44.1	10.3	1.10
ブルージェイ	早生	7/18	5,494	1.8	0.5	12.2	1.05
ミーダー	早生	7/20	3,961	1.8	11.1	8.7	0.95
スパータン	早～中生	7/21	4,311	2.0	15.3	10.2	0.90
レカ	早～中生	7/22	2,934	1.5	0.7	10.3	1.16
ヌイ	早～中生	7/23	5,051	2.2	28.7	9.0	1.37
シェラ	早～中生	7/23	2,469	2.0	31.0	10.7	1.42
ブルーチップ	早～中生	7/23	2,989	2.3	44.5	10.1	1.09
プル	中生	7/28	3,356	2.0	39.3	10.5	1.11
トロ	中生	7/28	4,576	2.0	22.9	9.0	1.05
ブルーレイ	中生	7/29	4,920	1.8	9.3	9.5	1.37
ブリギッタ	晩生	8/3	3,693	1.7	19.5	10.5	1.28
コビル	晩生	8/2	3,360	2.0	14.6	10.8	1.53
ダロー	晩生	8/7	4,480	2.2	38.0	9.8	1.81
レイトブルー	極晩生	8/11	3,756	1.4	1.9	11.1	1.89
エリオット	極晩生	8/14	2,286	1.3	0.8	13.3	2.02
平均		7/24	3,638	1.8	19.2	10.4	1.24

※収穫盛期は定植4～6年目の平均、積算収量は定植3～6年目の平均

※果重は定植3～6年目の収穫盛期における平均果重、選果割合は定植6～7年目の平均

※糖度、酸度は平成17～18年の平均

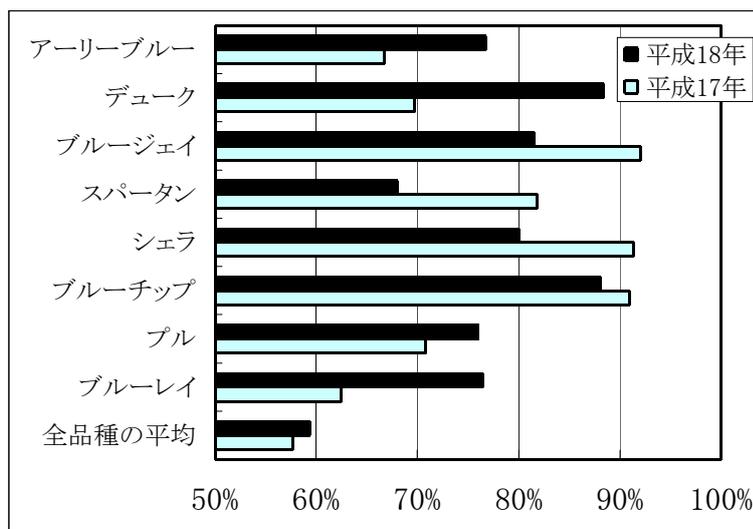


図1 ブルーベリーの食味評価

※1品種あたりの平均回答数:平成17年度24.5人、平成18年度29.6人

※食味評価は「うまい」「ややうまい」「ややまずい」「まずい」の項目中、「うまい」「ややうまい」の合計割合